

専門研究 B

**発達障害のある子どもの指導の場・支援の実態
と今後の指導の在り方に関する研究**

一通級による指導等に関する調査をもとに

平成 26 年度～27 年度

研究成果報告書

平成28年3月



独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所

はじめに

発達障害のある児童生徒への指導・支援に関しては、学校現場の課題意識が高く、その充実が喫緊の課題である。平成 20 年度以降、発達障害のある児童生徒を対象とした通級指導教室を設置する学校は増えているものの、地域によって設置数や設置状況の差が大きく、都道府県によっては特別支援学級の設置が急増している状況もある。一方、文部科学省が毎年実施している「通級による指導実施状況調査」では、指導を受けている児童生徒数や設置学校数等については調べられているものの、対象児童生徒の選定のシステムや通級指導教室の活用状況については調査対象となっておらず、発達障害のある児童生徒の指導や支援の状況について全国規模で現状把握をする調査は行われていない。

こうした状況を踏まえ、市町村における通級指導教室の設置状況を把握するとともに、各市町村で展開されている発達障害のある児童生徒への指導・支援の仕組みを明らかにすることは、今後、発達障害のある児童生徒への指導・支援の場の充実において、喫緊の課題であり、通級指導教室の一層の活用につながるものであると考えた。

そこで、「発達障害のある子どもの指導の場・支援の実態と今後の指導の在り方に関する研究～通級による指導等に関する調査をもとに～」という研究課題を設定し、平成 26 年度から 2 年間の研究に取り組むこととした。

目 次

はじめに

I. 研究の概要	1
1. 研究の背景	
2. 目的	
3. 研究の方法と計画	
4. 研究体制	
II. 「発達障害のある児童生徒の指導等に関する全国実態調査」について	4
1. 目的	
2. 方法と内容	
3. 調査結果	
4. 考察	
III. 地域事例の調査	30
1. 目的	
2. 方法と内容	
(1) 電話及び電子メールによる調査	
(2) 訪問調査	
3. 結果	
(1) 電話及び電子メールによる調査	
(2) 訪問調査	
4. まとめと考察	
IV. 総合考察	76
V. まとめと提言	79
文献	81
おわりに	82
資料	82
「発達障害のある児童生徒の指導等に関する全国実態調査」調査票（資料-1～11）	